



六桜花

やさしく かしこく たくましく
～未来を創造的に生きる力の育成～

有田市立
初島小学校
(校長室だより)

R7・11・27

No.60

「時さかのぼる歩き旅」 に参加して(*^o^*)

11月15日(土)秋晴れの好天に恵まれ、初島小学校発着で「時さかのぼる歩き旅」が行われました。

私自身、学芸員さんや語り部さんから語られた初島の名所・遺跡・旧跡・文化財のお話は知らないことばかりで大変貴重な経験となりました。参加して本当に良かったです。このような機会を与えてくださった主催団体様に感謝申し上げます。

椒古墳（はじかみ古墳）

築造時期：古墳時代中期の5世紀後半頃と推定
現状：ENEOS和歌山製油所の敷地内に所在するため、原則として非公開です。



あゝ特幹顕彰の碑

「特幹」とは:太平洋戦争末期に制定された「陸軍特別幹部候補生」の略称。この碑は、特幹として初島で訓練を受けていた若者が大空襲で戦没したことを顕彰するために建立されたもの。



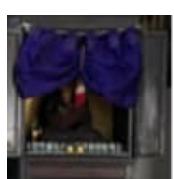
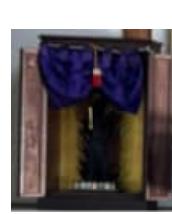
新田開祖鎮守之碑

江戸時代、阿波国（現在の徳島県）より紀州徳川家の許しをえて、この地へ入り、新しく田畠を開墾する事業（新田開発）を始めた人物である名倉氏を祀る碑。新田地区の開祖である名倉氏のお墓でもある。



上公会堂

初島駅前にある「上公会堂」、正善寺と同時期に栄えていた真言宗の大きなお寺にあったとされる仏像が数体安置されている。お寺は太平洋戦争末期の空襲で焼け落ちてしまったが、焼け残った仏像をここで安置している。



心光寺

太平洋戦争末期の空襲で焼け残った柿の木を保存している。



初島公民館（地ノ島遺跡石棺）

時代：古墳時代（縄文時代中期からの複合遺跡）

発見経緯：1959年（昭和34年）に、波浪による浸食で砂丘の一部が崩れた際、人骨や土器片が発見されたのがきっかけ。

石棺の数：3回の発掘調査（昭和34年、39年、45年）で、箱式石棺が4基を確認。

石棺の状態：1号石棺は原形をとどめていませんでしたが、2号、3号、4号石棺は人骨を含めてほぼ完全な形で発掘。人骨は、いずれも中国人的傾向が強いと評価されている。



正善寺

創建：古くは「金剛寺」と称する真言宗の寺院であったと伝えられている。（現在は無住寺）

国指定重要文化財の木造大日如来坐像を安置

時代：平安時代（康平5年、1062年制作）

特徴：胎内背面に制作年などが墨書きされており、平安時代中期から後期にかけての地方造像の一面を示す好作例と評価されている。

現状：像高79.0cmの檜（ひのき）の一木造りで、智拳印（ちけんいん）を結んだ、力強いお姿をしている。



見学させていただき、学芸員さん、語り部さんからお話ししていただいた内容は、ここに紹介しきれていません。どれをとっても大変興味深い内容でしたし、このような歴史を持った名所・遺跡・旧跡・文化財がこの地にあることを初めて知り、私自身、大変勉強になりました。

郷土を愛する心を育成するためには、今後、「ふるさと学習」をおこなう中で、初島各所の現場に出向き、学芸員さんや語り部さんにお話しいただく機会をつくり、子どもたちに必ず伝えていかなければならぬと考えています。